

努力事項解説 その5～②～ (中学校音楽)

各題材の目標に対応させて、4つの観点ごとにその実現を確認できる評価規準及び指導と評価の計画を作成し、生徒の資質や能力を多面的に把握できるように工夫し、活用しましょう。

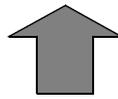


「音楽的な感受や表現の工夫」が「音楽表現の創意工夫」になったけれど、具体的にはどのように変わったのかしら？

評価の観点や趣旨は以下のように変わりました。特に、「音楽的な感受や表現の工夫」の観点が大きく変わっています。

評価の観点とその趣旨（現行）

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
趣旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わっている。
三要素	主体的に学習に取り組む態度	思考力・判断力・表現力等	基礎的・基本的な知識・技能	
領域	A 表現			B 鑑賞
	B 鑑賞			B 鑑賞



評価の観点とその趣旨（旧）

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力
趣旨	音楽に親しみ、音楽を進んで表現し、鑑賞しようとする。	音や音楽のよさや美しさを感じ取り、それらを音楽活動の中で創意工夫し、生かしている。	音楽を表現するための基礎的な技能を身に付けている。	音楽を楽しく聴取、鑑賞し、そのよさや美しさを味わう。
領域	A 表現			B 鑑賞
	B 鑑賞			B 鑑賞

「音楽的な感受や表現の工夫」と「音楽表現の創意工夫」は どのように違うのでしょうか？

「音楽的な感受や表現の工夫」は

- ①音や音楽のよさや美しさを感じ取り、
- ②それらを音楽活動の中で創意工夫し、生かしている。

状況を評価します。



- ①「付点八分音符と十六分音符の組合せのリズム」を聴いて、「弾んでスキップしたくなるようなリズムで楽しそうだな」とそのよさを感じ取り、
- ②「弾んだリズムの感じ」がはっきり分かるように、工夫して歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりして生かしている。



実際に歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりして、音楽活動で創意工夫している状況を評価します。



「音楽表現の創意工夫」は

- ①音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、
- ②音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図を持っている。

状況を評価します。



- ①「付点八分音符と十六分音符の組合せのリズム」を知覚し、「弾んでスキップしたくなるようなリズムで楽しそうだな」と感じしながら
- ②「弾んだリズムの感じがはっきりわかるように、工夫して」歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしようという思いや意図をもっている。



思いや意図を、言語活動等で表したものを評価します。(実際に歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりして生かしている状況を評価するものではありません。)



実際に歌ったり、演奏したり、音楽をつくっている状況を評価するのは、第3観点「音楽表現の技能」です。意図どおりに表現するには、技能（音楽表現の技能）が必要だからです。



今回は、指導要録の改訂で大きく変わった『「第2観点（音楽表現の創意工夫）」について考えてみました。

次回は、『第4観点（鑑賞の能力）』について考えてみます。

10月25日（金）頃アップする予定です。